

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

[成果情報名] 無加温パイプハウスを利用したつるむらさき栽培の収益性

[要 約] 無加温パイプハウスにおけるつるむらさき栽培では、3月上旬播種、4月上旬定植で10月中下旬まで収穫可能であり、約280万円/10aの所得が得られる。

[部 署] 山形県農業総合研究センター園芸試験場・野菜花き部

[連絡先] TEL 0237-84-4125

[成果区分] 普

[キーワード] つるむらさき、無加温パイプハウス

---

### [背景・ねらい]

夏秋期の山形県の気象条件に適した品目として、無加温パイプハウスを利用したつるむらさきの省力多収技術を開発した。本課題では、その収益性について経済性評価を行う。

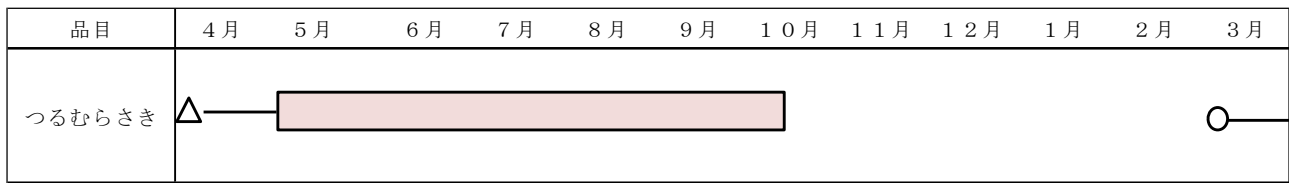
### [成果の内容・特徴]

- 1 無加温パイプハウスを利用したつるむらさきの雨よけ栽培は、3月上旬に播種、4月上旬に定植することで、5月上旬から10月中下旬まで収穫可能である（図1）。
- 2 本作型では10a当たりの収量は約12t、粗収入は480万円で、所得は280万円が見込まれる（表1）。

### [成果の活用面・留意点]

- 1 つるむらさきの肥効調節型肥料を用いた全量基肥施用体系はH30年度成果情報「つるむらさきの肥効調節型肥料を用いた全量基肥施肥法」を参照のこと。
- 2 つるむらさきの収穫終了後は、11月第1半旬～第3半旬の「山形赤根ほうれんそう」と組み合わせることができる。栽培技術は令和元年度成果情報「山形赤根ほうれんそう」の冬春期新作型を参照のこと。
- 3 適応範囲は県内全域。

[具体的なデータ]



○：播種 △：定植    収穫

図1 つるむらさきの栽培暦

表1 つるむらさきの経営試算結果

項目		金額等	備考
粗収入	収量	(kg)	12,000 1)
	単価	(円/kg)	400 2)
	粗収入	(円/10a)	4,800,000
経営費	生産費	種苗費	(円) 64,000 3)
		肥料費	(円) 52,000 1)
		農薬費	(円) 0 3) 4)
		動力光熱費	(円) 11,000 3)
		諸材料費	(円) 104,000 3)
		小農具費	(円) 8,000 3)
		減価償却費	(円) 334,000 3)
	小計	(円) 573,000	
流通経費	(円)	1,410,000 3)	
合計	(円)	1,983,000	
収益性	所得	(円)	2,817,000
	所得率	(%)	58.7
	所要時間	(時間)	1,602 3)
	8時間当たり所得	(円)	14,070

- 1) H30試験成績結果から算出（全量基肥40kg区の収量12.2t実績）
- 2) 東京都中央卸売市場（H28～H30）の5月～10月の3年平均単価から算出
- 3) 葉菜類振興指標を基にH30試験成績結果及び現在の資材単価実績から算出
- 4) H29、H30の試験は無防除で実施。
- 5) 減価償却費：ハウス周年利用で2作を想定。経営規模は水稲10ha、露地野菜1haを想定

[その他]

研究課題名：やまがた型特産野菜の省力高収益周年栽培技術の確立  
 予算区分：県単  
 研究期間：平成30年度（平成28～30年度）  
 研究担当者：齋藤謙二、中川隆彰、島貫源基  
 発表論文等：なし